



2017東海村成人の集い 感謝～挑戦(ゆめ)への扉(とびら)～

今年のテーマは「感謝～挑戦への扉～」です。このテーマには、今までの感謝の気持ちを胸に、夢に向かって挑戦していこう！という思いが込められています。

また、このように式典が開催できることは、私たち実行委員の力だけではなく、サポートして下さる多くの方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れずに、式典の成功に向けて全力を尽くします！

【実行委員】(写真前列左から)小泉慎太郎さん、国井由春さん(後列左から)興野和希さん、高野さつきさん

【期日】1月7日(土)
【時間】午前10時～正午(午前9時受け付け開始)
【場所】東海文化センター
【問い合わせ】生涯学習課生涯学習担当(中央公民館内 ☎ 282-3329)

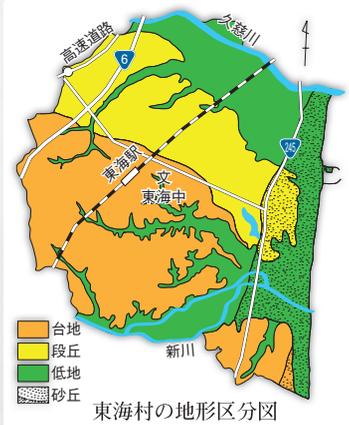
ふるさと歴史 自然を探して

坂道と自然の変遷

東海村自然調査団副団長 二階堂 章信

今から約12～13万年前の関東地方一帯は、ほぼ全域が浅い海に沈んでいました。海底には土砂が堆積し、平らになっていました。このときの海を「古東京湾」と呼び、東海村もこの湾の底に沈んでいました。その後、地球が寒冷化して氷河期になると、海水が氷河となって陸上に蓄積し、海水が減って海面が低くなります。そのため、海底だった関東地方は陸地となって川が流れ始め、これまで平らだった大地は、あちこちで深く広く侵食されて、氾濫原が広がるようになります。河川により侵食されなかった平坦な土地は台地となり、侵食されてきた氾濫原などは低地となりました。

東海村では古東京湾底の一部として村南部(舟石川、船場、須和間、村松、照沼など)に台地が残り、新川流域と久慈川流域の水田地帯に低地が広がっています。では、村北部(石神外宿、石神内宿、豊岡、白方など)の台地のように見える平らな土地は何でしょう。ここは、村南部の台地と比べて一段低い平坦地



このように自然の変遷を持つ大地に人が住むようになると、道ができ坂道が出来ます。東海村には台地や段丘、低地が広がり、砂丘や自然堤防、台地上の長年の風雨によるうねりなど、高低差のある地形が数多く見られます。不便を感じる時もある坂道の存在には、このように自然の変遷が大きく関わっているのです。

なっています。その高低差は駆上付近では4メートル程度ですが、東海中学校の北側や東側では10メートル以上になるところもあります。この村北部の平らな土地は、古東京湾の海が退き、陸地になり始めた石神外宿や白方付近に流れてきた久慈川が、辺り一帯を削ってできた一段低い広い河原です。これが村北部の平らな土地段丘の原型です。久慈川はその後、流路を北へ北へと変えながら、1万2千年前頃まで続いた海面低下によって、下方と側方の侵食を繰り返し、削られなかった村北部の平らな所は段丘に、削られた所は低地になりました。



- 村公式アプリ 「こちら東海村」
- 村公式子育て応援アプリ 「のびのび子育て帳」
- 村公式フェイスブック 「東海村ご当地レポーター」
- 村公式ツイッター 「東海村」